**曹洞宗大本山總持寺・ニコニコ法話　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和6年4月**

胸中のともしび

**茨城県安禅寺住職　染谷典秀老師**

平成5年8月13日の朝、本山の棚経をつとめるため、訪問先の名簿と手作りの地図を手に戸塚の駅に降りたちました。午後9時までに本山に帰らなければならず、できるだけ速いペースで回らなければと思いながらバス乗り場を探しましたが、商店街をぬけた場所にあったためしばらく迷ったあげく、にわか雨が降り出して、あわてて雨宿りをしました。雨があがったので歩き始めたら、地図がなくなっていることに気づきました。しばらく探し回りましたが、みつけることができませんでした。

名簿を頼りに、何とか2軒めのお宅までたどりつきました。ＦＡＸをお借りして本山から地図を送ってもらいましたが、すでにお昼を過ぎていました。それから数軒回りましたが、あと10軒ほど残っており、午後4時をまわっていました。途方に暮れながら歩いていた郊外の商店街で次のお宅までの道を尋ねようとある雑貨店に入りました。そこにいた女性に地図を見せると「ああ、ここからは遠いわね」とおっしゃいました。それを聞いた私の表情がよほど暗かったのでしょう。かたわらにいたご主人に声をかけました。ご主人は「車に乗りな。送っていってやるよ」と言ってくれました。平生であれば固辞するところですが、甘えさせてもらうことにしました。

次のお宅まで乗せていってもらい、お礼を申し上げてご供養をつとめました。20分ほどで辞去すると、表でご主人が待っていました。「最後まで乗っけてってやるよ」というのです。そうしてとても終わるはずがないと思っていた残りの軒数を、午後7時過ぎには回り終えていました。

車を降りるときに「お礼をしたいので、お名前と連絡先を教えてくださいませんか」と言いましたら、「そんなつもりで乗せたんじゃねえよ」と言って、颯爽と去って行かれました。

誰かのためにする無償の行動を「利他行」といいます。ご主人の利他行は胸中のともしびとなって、今も光と熱を放ち続けています。